

郡入選作品

春風  
日下

春風  
夏帆

令和  
柑夏

令和  
聡莉

令和  
片岡

正月  
悠翔

正月  
明日奈

富教研書

富教研書

富教研書

富教研書

富教研書

富教研書

富教研書

金賞

金賞

金賞

金賞

金賞

金賞

金賞

立見町立荒砥小学校 G 5年 4 氏名 明日奈

立見町立荒砥小学校 G 5年 4 氏名 悠翔

立見町立荒砥小学校 G 5年 5 氏名 片岡

立見町立荒砥小学校 G 5年 5 氏名 聡莉

立見町立荒砥小学校 G 5年 5 氏名 柑夏

立見町立荒砥小学校 G 5年 5 氏名 夏帆

立見町立荒砥小学校 G 5年 6 氏名 日下



郡入選作品

宮 教 研 書

互理郡書初展  
金賞

春

日下

風

学校名 互理町立荒浜小学校 G 学年 6 氏名 日下知恵

宮 教 研 書

互理郡書初展  
金賞

春

夏帆

風

学校名 互理町立荒浜小学校 G 学年 6 氏名 藤田夏帆

宮 教 研 書

互理郡書初展  
金賞

今

柑夏

和

学校名 互理町立荒浜小学校 G 学年 5 氏名 鷺尾柑夏

宮 教 研 書

互理郡書初展  
金賞

今

聡莉

和

学校名 互理町立荒浜小学校 G 学年 5 氏名 小野聡莉





正

明日奈

月



正

悠翔

月



今

片岡

和



今

聡莉

和



はっ日がのぼる。み  
んなえがおておめで  
とう。

まきの ゆめ

「七草がゆ」をたべると  
元気にすごせると言わ  
れています。

二年いとうゆい

はっ日がのぼる。み  
んなえがおておめで  
とう。

木むらここな

「七草がゆ」をたべると  
元気にすごせると言わ  
れています。

二年 ほしりく

友だちと手をつないで  
走りました。はずむ足音。  
空が、きらきら光りま  
した。

三年 津田 ゆらら

友だちと手をつないで  
走りました。はずむ足音。  
空が、きらきら光りま  
した。

三年 只野 美羽

「七草がゆ」をたべると  
元気にすごせると言わ  
れています。

二年 つのだ ひびに

友だちと手をつないで  
走りました。はずむ足音。  
空が、きらきら光りま  
した。

三年 伊藤 聖乃

どんと祭は、正月かざりを  
集めてもやす、昔から続く  
行事。人々のねがいをのせて  
けむりが天にのぼって行く。

四年 早坂 晃

どんと祭は、正月かざりを  
集めてもやす、昔から続く  
行事。人々のねがいをのせて  
けむりが天にのぼって行く。

四年 齋藤 恵花

遠い国へ  
江戸時代の初め、港を  
出航したサンファンパウ  
ティスタ号は、政宗の志を  
乗せた船。およそ7年に  
わたる旅の記録や資料は  
多くのことを伝えてくれる。

5年 小野 聡莉

遠い国へ  
江戸時代の初め、港を  
出航したサンファンパウ  
ティスタ号は、政宗の志を  
乗せた船。およそ7年に  
わたる旅の記録や資料は  
多くのことを伝えてくれる。

5年 鷺足 柑夏

山深み春とも知らぬ松の戸に  
たえたえかかると雪の玉水  
山が深いので、春になったと気付か  
ない小屋の松の戸に、とぎれとぎれ  
にかかっている宝石のような雪解け  
の水よ。

六年 伊藤 聖莉

遠い国へ  
江戸時代の初め、港を  
出航したサンファンパウ  
ティスタ号は、政宗の志を  
乗せた船。およそ7年に  
わたる旅の記録や資料は  
多くのことを伝えてくれる。

5年 小野 悠都

山深み春とも知らぬ松の戸に  
たえたえかかると雪の玉水  
山が深いので、春になったと気付か  
ない小屋の松の戸に、とぎれとぎれ  
にかかっている宝石のような雪解け  
の水よ。

六年 塚邊 夏帆

山深み春とも知らぬ松の戸に  
たえたえかかると雪の玉水  
山が深いので、春になったと気付か  
ない小屋の松の戸に、とぎれとぎれ  
にかかっている宝石のような雪解け  
の水よ。

六年 日下 知恵

山

美喜

川

山

聖乃

川





山

聖  
乃

川



山

美  
喜

川



どんと祭は、正月かざりを  
集めてもやす、昔から続く  
行事。人々のねがいのをのせて、  
けむりが天にのぼって行く。

四年 早坂晃

巨理郡書初展  
金賞

遠い国へ

江戸時代の初め、港を  
出航したサン・ファン・バウ  
ティスタ号は、政宗の志を  
乗せた船。およそ7年に  
わたる旅の記録や資料は  
多くのことを伝えてくれる。

5年 小野 聡莉

巨理郡書初展  
金賞

山深み春とも知らぬ松の戸に

たえだえかかる雪の玉水

山が深いので、春になったと気付か  
ない小屋の松の戸に、とぎれとぎれ  
にかかっている宝石のような雪解け  
の水よ。

六年 伊藤 聖莉

巨理郡書初展  
金賞

山深み春とも知らぬ松の戸に

たえだえかかる雪の玉水

山が深いので、春になったと気付か  
ない小屋の松の戸に、とぎれとぎれ  
にかかっている宝石のような雪解け  
の水よ。

六年 塚邊 夏帆

巨理郡書初展  
金賞

どんと祭は、正月かざりを  
集めてもやす、昔から続く  
行事。人々のねがいのをのせて、  
けむりが天にのぼって行く。

四年 齋藤 恵花

巨理郡書初展  
金賞

遠い国へ

江戸時代の初め、港を  
出航したサン・ファン・バウ  
ティスタ号は、政宗の志を  
乗せた船。およそ7年に  
わたる旅の記録や資料は  
多くのことを伝えてくれる。

5年 鷺足 柑夏

巨理郡書初展  
金賞

山深み春とも知らぬ松の戸に

遠い国へ

江戸時代の初め、港を  
出航したサン・ファン・バウ  
ティスタ号は、政宗の志を  
乗せた船。およそ7年に  
わたる旅の記録や資料は  
多くのことを伝えてくれる。

5年 小野 悠都

巨理郡書初展  
金賞

山深み春とも知らぬ松の戸に

たえだえかかる雪の玉水

山が深いので、春になったと気付か  
ない小屋の松の戸に、とぎれとぎれ  
にかかっている宝石のような雪解け  
の水よ。

六年 日下 知憲

巨理郡書初展  
金賞



はっ日がのぼる。み  
んなえがおでおめで  
とう。

巨理郡書初展  
金賞

まきのゆめ

はっ日がのぼる。み  
んなえがおでおめで  
とう。

巨理郡書初展  
金賞

木むらここな

「七草がゆ」をたべると、  
元気にすごせると言わ  
れています。

巨理郡書初展  
金賞

二年いとうゆい

「七草がゆ」をたべると、  
元気にすごせると言わ  
れています。

巨理郡書初展  
金賞

二年ほしりく

友だちと手をつないで、  
走りました。はずむ足音。  
空が、きらきら光りま  
した。

巨理郡書初展  
金賞

三年津田ゆらら

「七草がゆ」をたべると、  
元気にすごせると言わ  
れています。

巨理郡書初展  
金賞

二年つのだひなた

友だちと手をつないで、  
走りました。はずむ足音。  
空が、きらきら光りま  
した。

巨理郡書初展  
金賞

三年只野美羽

友だちと手をつないで、  
走りました。はずむ足音。  
空が、きらきら光りま  
した。

巨理郡書初展  
金賞

三年伊藤聖乃